

真菌医学研究センター Monthlyセミナー

平成28年 7月 1日(金) 16:00~17:30
千葉大学真菌医学研究センター 大会議室

共生細菌により生み出されるTh17細胞の 分化誘導とその活性化の分子機構

Molecular mechanisms of Th17 cell differentiation and activation
in response to commensal bacteria in the mouse intestine

Skirball Institute of Biomolecular Medicine,
New York University School of Medicine, New York, USA

佐野 晃之 博士

腸は解剖学上、外界と接している最大にして最も複雑な免疫器官である。病原菌が侵入した際には、免疫系はその病原菌特異的、非特異的に強く活性化され、生体を感染から防いでいる。一方で、病原菌の感染に関わらず、人の腸内には100兆個を超える共生細菌が生息しており、腸管免疫細胞は腸管に常在する共生細菌により構築、活性化され、生体を感染から防いでいる。近年ではこの共生細菌の異常が、自己免疫疾患、精神疾患、悪性腫瘍などの様々な疾患に関与していることが報告されてきた。しかしながら、腸管粘膜における免疫系がどのように共生細菌と相互作用し、分化誘導及び活性化されるかは未だ不明な点が多い。

本講演では、ヘルパーT細胞のサブセットであるTh17細胞を分化誘導するユニークな共生細菌「SFB」に着目し、SFBによるTh17細胞の分化及びその活性化の分子機構について解説し、いかにして共生細菌由来のTh17細胞が病原性を獲得し、疾患に関与するかの議論を深めたい。

主催：千葉大学真菌医学研究センター

共催：千葉大学リーディング研究育成プログラム推進候補

「“超個体”の統合的理解に基づく次世代型『感染制御学』研究推進拠点」

世話人及び連絡先：後藤義幸(千葉大学真菌医学研究センター 感染免疫分野)
(Tel:043-226-2490, E-mail:y-gotoh@chiba-u.jp)